

「総計」についてインプット

総合計画って？

10年間のまちづくりの指針となる、芦屋市の最上位の計画です。
現在の「第4次芦屋市総合計画」は2020年度が最終年度となり、2021年度から新たな計画期間が始まります。

山中市長からのメッセージ

「安全安心」と「教育」が充実している都市は衰退しないと私は考えています。皆さん、どんどん意見を出してください！

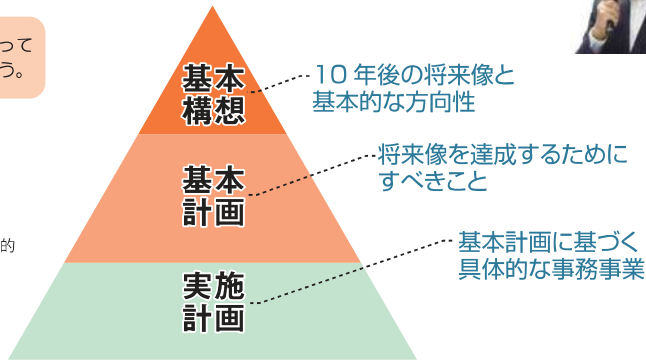


総合計画の3層構造

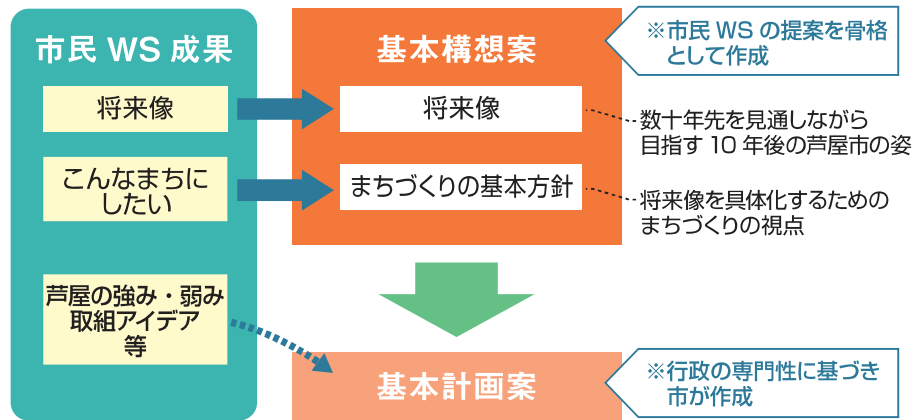
みんなで作っていきましょう。



総合計画と今回のWSの目的について説明する、芦屋市政推進課担当者



市民ワークショップでは、「基本構想案」をつくっていきます。



今回のワークショップの意見を骨格として、「基本構想案」を作成していきます。今後「基本計画案」とともに、行政内部の推進本部や外部有識者等の意見を取り入れながら策定に向けて進めていきます。

市民36人職員16人、総勢52人によるワークショップがスタート

まずは雰囲気づくりから

参加者は市民・職員混合でAからHまで8つのチームに分かれました。ワークショップでは、意見がどんどん出てくる雰囲気づくりが重要。自分の意見が否定される場では、良い意見は出ません。持ち物ゲームで「安心して意見を言い合えるコツ」を掴んでもらい、その後のディスカッションが進むほど、各テーブルで参加者の距離がどんどん近くなっていくのが分かりました。



宇宙旅行の持ち物を40個考えるゲーム

いよいよ本題、芦屋の現状を考えてみる

この日の目標は芦屋の現状について思っていることを全部出しきってしまうこと。芦屋の「いいところ、自慢できるところ」反対に「わるいところ、心配なところ」をまずは各自でフセンに書いていきます。ファシリテーターを務める浅見さんもびっくりするほど、たくさんのフセンを使う参加者もちらほら。

こんなにたくさん意見のでるワークショップ初めてかもしれない！



どんなまちか見えてきた？！

それぞれで書き出したフセンをチームで共有して、意見交換しながら分野ごとにまとめていきます。行き詰ったら他のテーブルを視察してもOK！どのテーブルも模造紙の上に「芦屋のまちの姿」が現れてきました。各チームの結果発表では、共通するキーワード、独自の視点、同じことでもプラスと捉えていたりマイナスと捉えていたり、短時間の中で充実した意見交換の成果を確認しました。



ちょっと時間超過でも発表を続けます



盛り上がり、どんどん立ちあがる参加者

次回からは、構想案に向けたキーワードを探していきます

ワールドカフェの成果を全体で共有

3つのテーマについて話し合いが終わったら、最初に座ったテーブルに戻り、自分たちが最初に出し合った意見から、どんな風に広がっていったかを確認しました。どのテーマもテーブル一杯に書き込みがされており、よいまちにしたいという思いが表れていました。最後にそれぞれのテーマで話し合われた成果が全体に発表され、「地域力が重要」「既存の資源の活用」などの意見が共有されました。最後に第3・4回の中でビジョンに繋がるキーワードを抽出していくことを確認しました。



今回のワークショップの発表をまとめたグラフィック・レコーディング

次回予告

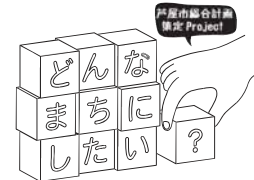
第3回
市民ワークショップは
12/2 (日)です

(問い合わせ) 芦屋市役所 企画部政策推進課 芦屋市精道町7番6号
TEL 0797-38-2127 (直通) FAX 0797-31-4841

SouKeiNEWS

No.02

芦屋市総合計画策定 Project 総計ニュース 第2号 2018年11月
芦屋市政策推進課発行



芦屋を考える 10の視点



2018.11.11(日)

第2回市民ワークショップ

テーマ:

どんなまちを
目指せばよい
だろう?

第2回目のワークショップでは、前回のテーマ「芦屋ってどんなまち？」で出された意見をもとに整理した10の分野について、芦屋はどうなっていけばより良いまちになっていくのか、あしや市民活動センターにて、ワールドカフェ方式でディスカッションを行いました。

職員と市民が膝を突き合わせ、それぞれの思いや知見を共有しながら、ビジョンの策定に向け意見を出し合う前向きな場となりました。

第1回ワークショップの意見をもとに、10のテーマに分かれ、意見を出し合いました

マインドマップから見えてきたテーマ

下の樹形状の図は、第1回目のワークショップで出た意見を「マインドマップ」と呼ばれる表現方法で整理したものです。芦屋ブランド、子育て・教育、景観・居住環境、自然、文化、安全・安心、コミュニティ、行政施策、生活便利、商業・産業という10のテーマが浮かび上がってきました。全体に関わる「芦屋ブランド」を第3回目に扱うため、今回のワークショップではテーマから除き、その代わりにまちづくりに必要な視点である、多様な人々がともに生きる「共生」を加え、10個のテーマ別にテーブルを分け、ワールドカフェ方式で一人3つのテーマについて話し合っていました。

- 10のテーマ
- ①子育て・教育
 - ②景観・居住環境
 - ③自然
 - ④文化
 - ⑤安全・安心
 - ⑥コミュニティ
 - ⑦行政施策
 - ⑧生活便利
 - ⑨商業・産業
 - ⑩共生



今回のワークショップの目的と進め方を、ファシリテーターの浅見さんからインプット

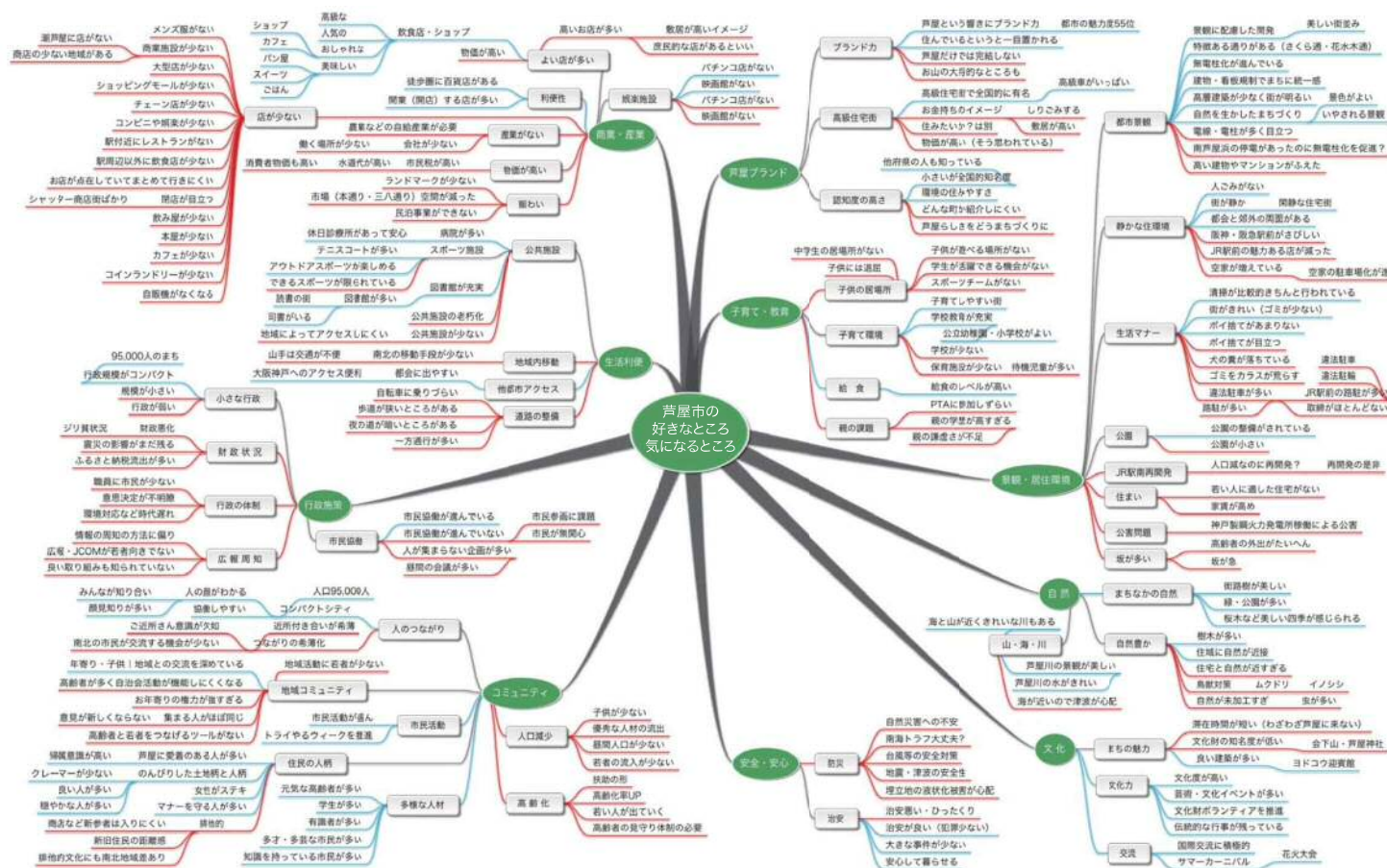


カフェのようにリラックスした雰囲気の中で、少人数に分けたテーブルで、自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーの組み合わせを変えて対話を続けながら、参加する全員の意見や知識を集めることができる対話手法の一つです。

今回は、各テーマ20分の対話をした後、別のテーマのテーブルに移動し、対話を2回繰り返した後、最初に選択したテーマのテーブルに戻りました。

第1回ワークショップ「芦屋の好きなところ|気になるところ」 皆さんから出た意見

※同じ意見、似た意見は一つにまとめています。紙面編集の都合で一部文章を改変したところがあります。



文字通り「膝を突き合わせて」話し合い

今回は、大きな円形のボール紙を膝の上に載せて即席の円卓を作り、その上に直接意見を書きこみました。この方法により、グッと参加者同士の距離が縮まり、心も近づいて自由に意見を出し合うことができたようです。また、芦屋市職員がテーマごとの固定メンバー役を担い、ワークショップに不慣れな職員もファシリテーターとしての経験を積むことができました。



第4回ワークショップ

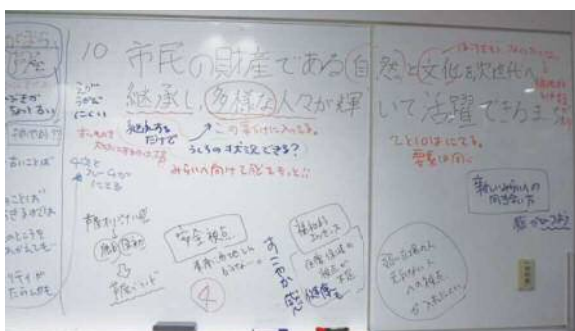
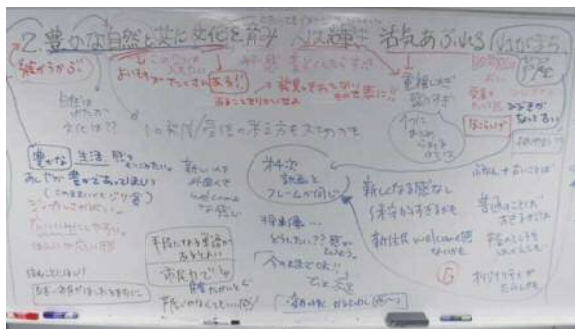
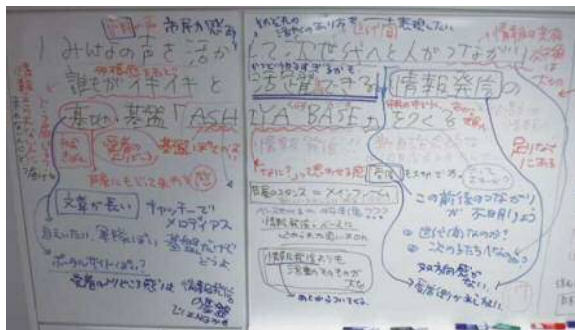
「芦屋の将来像」について全員で議論

まずは参加者から応募のあった34個のアイデアに対して、投票を行い、多くの票を得たアイデアをもとに、議論を進めていきます。

票が多かった3つのアイデアに対して、いいところ、もっと良くできるところを全員で考えていきました。

議論が進んでいくと、参加者それぞれの思いが出てきます。多くの方がいいと思うアイデアに、それぞれの思いを足していくと、皆の意見をくみ取った文章に近づいていきます。ただし一方では、この作業を進めていくと、「よくあるフレーズ」になってしまうのではないかと芦屋らしさがもっと必要ではないか？などの意見も出されました。

第4回は、「芦屋の将来像」のワークショップ案が決まることが目標でしたが、今回だけでは議論はまとまらず、次回に持ち越されることになりました。



次回予告

第5回
市民ワークショップは
1/19(土)です

(問い合わせ)
芦屋市役所 企画部政策推進課
芦屋市精道町7番6号
TEL 0797-38-2127 (直通)
FAX 0797-31-4841

SouKeiNEWS

No.03

芦屋市総合計画策定 Project 総計ニュース 第3号 2019年1月
芦屋市政策推進課発行



2018.12.2(日) & 12.15(土)

第3回市民ワークショップ

分野を横断する
「あるべき姿」とは?

第4回市民ワークショップ

「芦屋の将来像」を
言葉にしていく

第1回、第2回で出てきたたくさんの意見をもとに、このワークショップの目的である

「将来の方向性」につながる

「こんなまちにしたい(あるべき姿)」と

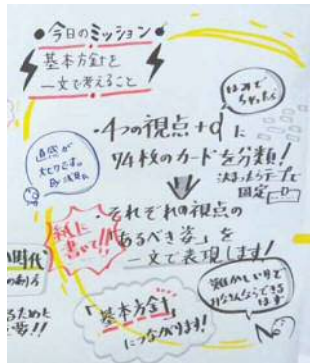
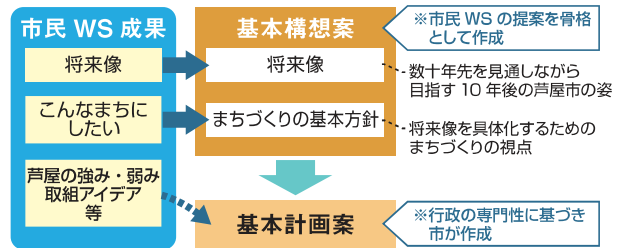
「あしやの将来像」を考えるとところまでできました。

これまでの具体的な意見から思いをくみ取り、抽象化していく難しいワークになりました。

第3回ワークショップ

これまでとこれからを確認

第3回は全5回の折り返し点でもありますので、このワークショップの位置づけを再確認し、これまでの振り返りと、これからの流れについてファシリテーターの浅見さんから説明がありました。



4つの視点 + α で「あるべき姿」を考える

前回、ワールドカフェ方式で話した分野別の「あるべき姿」についての意見を整理し、「目指すべき方向性」として74の意見を抽出しました。今回の議論のベースとして、これまでの議論の内容を踏まえ、事務局では基本方針のもとになる分野横断的な4つの視点を提案し、また違った視点を検討できるよう「+α」の枠を設けました。

74の意見(方向性)はこちらに掲載しています



STEP 1

8テーブルに分かれ、まずは74の「目指すべき方向性」を4+αのフレームに当てはめていき、それぞれの視点がどの分野をカバーしているのか理解を深めていきました。その中で、視点が分野横断的に広がっていることや、方向性として足りていなかったことの気付きを得ることも繋がりました。

STEP 2

STEP1のワークの後で、4つの視点ごとの「あるべき姿」を現す一つの文を作成しました。これまでの、具体的なことから織り交ぜながらの議論と異なり、大きな視点から抽象的な方向性を語る難しい作業でしたが、どのグループも時間内にアウトプットを終え、発表することができました。(次ページ)

4つの視点 + α

人のつながり	市民間の交流と活動や地域力に関する視点
暮らしやすさ	安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点
資源	芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点
未来	少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点
+α	上記に当てはまらない視点



「あるべき姿カード」をフレームの中に配置しながら議論

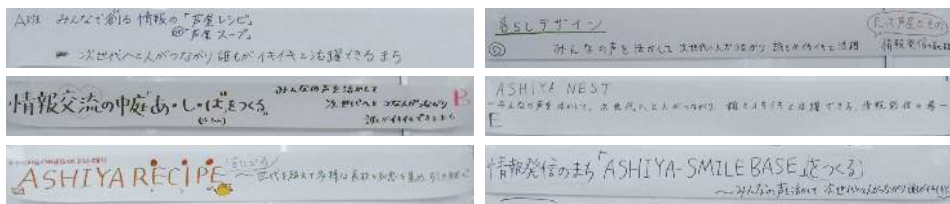
第3回市民ワークショップでの視点ごとのあるべき姿

括弧内のアルファベットはチーム名

人のつながり	<ul style="list-style-type: none"> (A) 市民と市職員が協力し開かれて地域のために世代をこえたコミュニティ作りをする (B) 市民と行政が協働し、温故知新の場ができる街 (C) 老若男女を問わず(世代横断)、新しいコミュニティと古いコミュニティの融合→イノベーション (C) 新たな場(まちの縁側)づくり 小・中・高・大学生のさらなる交流 (D) いろんな世代がどんどん入り、集い、ふれあうことで多様な価値観をもち、活発な流動・発展(=新陳代謝のよい)を行うコミュニティをつくる(なる) (E) 既存のコミュニティを含めて、基盤となるコミュニティを強化/多様な人たちの顔が見える関係をきづき、楽しめるコミュニティ作りを応援 (F) 多種多様な立場の人々が顔の見える場を通して、気軽に話し合える関係性が生まれる街 (G) 多様な価値観と世代間の交流がはかれる仕組みのあるまち (H) 今あるものも、これからできるものも、多様性を認め合うほどよい距離感でつながる
暮らしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> (A) 芦屋の豊かな自然を維持し、市民が安心安全に暮らせ、子育てができるまち (B) 芦屋の良さを活かした誰にとっても安心・安全でコンパクトな(まとまっている・アクセシビリティが高いという意味)暮らしやすい街 (C) 高齢者・主婦・障がい者など誰もが多様なスタイルで活躍できる多様性と包摂性 (C) きめこまかな情報共有強化(防災/コミュニティ/まちづくり/日常生活)※寝たきりの人にもきちんと伝える必要 (D) 人と人とのつながりを活かし、子どもから高齢者・全ての人にやさしく、住み続けたい街をデザインする。 (E) みんなに便利なまち 安心安全に暮らせるまち(情報発信・共有) 情報力のあるまち 充実した子育てができるまち (F) 自然との共生に折り合いをつけながら、安心安全な環境のもと子ども～高齢者、障がいのある方、それぞれのスタイルで活躍できる街 (G) 有事も視野に入れた地域格差のない公共施設の設備とそのためにも官民一体でとりくめるまち (H) みんなの声がとどいて、活かされるまち
資源	<ul style="list-style-type: none"> (A) 古いもの、新しいものがバランス 両方活かす(既にあるものを活用) (B) 今ある良さを皆が共有し、育んで循環させるまち (C) 芦屋オリジナルをみんなで共有し、住んでいる人が大切にしてい(どう活かすか?) (D) 古くからある文化・芦屋のイメージを残しつつ、新しいモノを受け入れ”芦屋をほこりに思える”芦屋市をつくる (E) 古き良きものを活かし自然と共生できるハード面の整備 (F) 芦屋の自然や文化資源を活かして未来の活動人口である子どもたちが育つ街 (G) 既存の自然や伝統・文化を活かした産業や教育が充実したまち (H) 文化、産業、イメージなどの既存資源を大事に時代とニーズに合ったものに変えていく
未来	<ul style="list-style-type: none"> (A) 子どもが活躍できる芦屋が活性化するような教育方法 (B) 多様な価値観を尊重し、全ての立場の人が共生・協働・働き方のイノベーションが起こるまち (C) 総合力 生きていく力をつけるキャリア教育 (C) 透明な意思決定プロセス 行政/議員/一般市民/民間企業/地域組織等オール芦屋で (D) 市民と行政がつながり、芦屋をよく知ることで(情報発信・キャッチ仕組み)活気あふれ、希望のもてるまちを創造する (E) 芦屋の教育力、財政力、魅力(芦屋らしさ)を充実させて、人が住みたくなるまち→持続可能なまち (F) 芦屋のカラーが活きる街 カラーとは…色/特色 (G) ”芦屋らしさ”を共有でき、創出することができることも地域全体で子どもを育てることのできるまち (H) 世代問わず、誰でも活躍できるまちを次世代につなげる

いよいよワークショップ案が決まる?!

延長戦！熱気と緊張が入り混じる会場



ここからは、限られた時間で最終案を作る必要があるのですが、ベストな決め方ではないかもしれませんが、自分がいいと思った案に投票を行い、投票数を見て案を絞っていくこととしました。

その結果、ほぼ同じ票で二つの案が残りに、決選投票を行いました。なんと全く同じ票になってしまいました。そこで、お互いに再度プレゼンをしたり、投票のルールを少し変更したりしましたが、同数が数回続きました。

最後は二者択一ではなく、それぞれの案に「YES」と「NO」で意思表示をしてもらい、わずかな差で「情報発信のまち『ASHIYA SMILE BASE』つくる ～みんなの声を活かして 次世代へと人がつながり 誰もがイキイキと～」を残すこととなりました。

そして、この案についてさらに全体の意見を集約していき、メインのフレーズは「ASHIYA SMILE BASE」をワークショップ案とすることができました。サブタイトルについては「みんなの声を活かして 次世代へと人がつながり 誰もがイキイキと」をもとに考えましたが、最後まで固めることができず、このワークショップの議論を踏まえて、事務局で調整を行うこととしました。

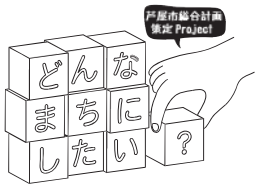


今回ワークショップで出来上がった将来像の案を起点に
内部・外部での議論や検討を重ね、
総合計画の基礎となる「基本構想」を作り上げていきます。

(問い合わせ) 芦屋市役所 企画部政策推進課 芦屋市精道町7番6号
TEL 0797-38-2127 (直通) FAX 0797-31-4841

SouKeiNEWS

No.04 芦屋市総合計画策定 Project 総計ニュース 第4号 2019年2月
芦屋市政策推進課発行



2019.1.19 (土) 第5回市民ワークショップ

テーマ：
**将来像の
ワークショップ案を
つくりあげる**

第4回に引き続き、「将来像」のワークショップ案を決めるための議論を行いました。芦屋市の未来に向けた、参加者それぞれの思いが込められた言葉を生み出すため、白熱したワークショップになりました。
果たして、ワークショップ案を決めることはできたのでしょうか…?

いよいよワークショップ最終回スタート

今日でどこまでできるのかを共有



10月から始まったワークショップもいよいよ最終回。この日も冒頭はワークショップのここまでの振り返りと、着地点の確認をおこないました。

この最終回で、今後10年間の基本構想のうち、将来像のワークショップ案を決めていきます。基本方針については、前回の意見をもとに今日の議論で出された意見も踏まえて整理することとしました。

ブラッシュアップの方向性

みんなの声を活かして
次世代へと人がつながり
誰もがイキイキと活躍できる
情報発信の基地・基盤

「ASHIYA BASE」をつくる

サブタイトルとして活かす

求心力のあるメインの言葉とする

将来像については、第4回のワークショップで一番支持の多かった「みんなの声を活かして 次世代へと人がつながり 誰もがイキイキと活躍できる 情報発信の基地・基盤『ASHIYA A BASE』をつくる」の案を基に考えることとし、前回の意見として、

- ①文章を短くシンプルにすることや主題となる単語が欲しいといった意見があり、できるだけ短く求心力のある言葉が望ましい
- ②前回の案の中でキーワードは「ASHIYA BASE」にある
- ③しかし、芦屋市内に同名の店舗があることや、福岡県の芦屋町にある「芦屋基地」と混同される可能性があることなどから、そのまま将来像として使用することは難しい

以上の点から、「ASHIYA BASE」に込められた思いを表す他の言葉を見つけ、メインの将来像の言葉とし、前半部分「みんなの声を活かして 次世代へと人がつながり 誰もがイキイキと活躍できる」については、サブタイトルとして併記するスタイルが、前回皆さんに選んでいただいた案の内容を変えないで、かつ、これまでにない新しい感を出して目を引くものになるのではないかと考え、この方向でワークを進めていくこととしました。



ワークアウトが続きます

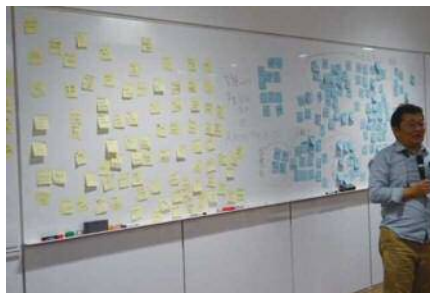
「ASHIYA BASE」の本質を掘り起こす

まずは、「ASHIYA BASE」に込められた思いや、なぜこの言葉をいいと思ったのかを、第1回目のワークショップで練習したブレインストーミング（プレスト）の手法を思いだし、短時間でできるだけたくさん出しました。

このワークの結果、大切にしたい思いとして「ホームタウンとしての芦屋」を核として「未来」「国際的」「ワクワク感」などが抽出されました。



思いを表す言葉を出し切る



次のステップとして、込められた思いを表す言葉を、同じくプレストの手法を使いひたすら挙げていくワークを行いました。フセンに書かれたアイデアをファシリテーターの浅見さんが読み上げ、それを聞いてまた新しい発想に結びつけ、次々と言葉を出していきました。

2段階のワークの後、グループで最終的な将来像を考えていくワークに入りました。

ここまでのプレストで出されたアイデアを踏まえながら、まずはメインのフレーズを固めていき、そこからサブタイトルも言葉も推敲していくという手順を踏んでいきます。

先ほどまでの発散から、文章に収れんさせていくのはやはり難しく、順調にコンセプトを固めて言葉をつないでいくグループもありましたが、多くのテーブルで頭を悩ませ、意見を慎重に交換しながら、将来像を作成していきました。

そして、それぞれのグループがブラッシュアップした6つの将来像の案が出てきました。

